

今月の主なNEWS

- ▶ 第1回石油生産用部材研究会開催 P 2
- ▶ 特集—JRCM 5年間の歩み..... P 3
- ▶ (株)ライムズ、技術販売ノ P 5
- ▶ 事務局の人事異動と新人紹介 P 8

本誌は地球環境保全を考慮し再生紙を使用

TODAY



暮らしが変わる社会が変わる

—パートナーとしての男性への期待—

評論家 五代 利矢子

私は、生活者、利用者として暮らしの視点になって、国際化、情報化、高齢化といった社会の変化について述べ、できれば男性の方々に励ましになるようなことにも触れたいと思います。

国際化が進みつつあります。近所に家族4人のクリーニング屋さんがあります。お客で西欧の方は洗濯物のしみが落ちますかと技術を問題にし、東南アジアの方は値引きを相談なさるといふ風に色々です。対応は柔軟でないといけません。もめるとき、男が出るとややこしくなるようで、なるべく奥さんが多様な交渉に当たられるようです。内なる国際化はクリーニング屋さんのカウンターで既に始まっているのです。

世代間ギャップについてみますと、例えば服装です。最近の若者は、いいスーツは遊びに着ます。土曜、日曜の過ごし方も、彼らは都心、つまり誰もが集まりやすい所へ出かけるので、かえって土、日の電車が込み休日ダイヤの再検討が必要とか。

若者の車の使い方も変わってきています。ドラ

イブの前には、なによりも好みに編集したテープを用意します。車の中は、窓を開けないで、サロンのような空間です。その中で、1日をどういう音楽で仲間と過ごすかが大切なのです。彼らには、車は、「どの地点からどこまで、何時間で行かなければならない」ということのための移動手段だけではありません。従って渋滞も苦痛ではないようです。

情報化ということでは、最近の携帯電話の急速な普及が示すように、ビジネスマンはもとより若者にも、工事現場の棟梁にも愛用されています。さまざまなニューメディアの出現で人々は、24時間の内の、どの時間帯にどこで働くか、選べるようになります。こうした人々の働く時間に合わせてデパートの終業も遅くなりつつあります。今後、働き方は多様なメニューが出てくると予想され、オフィスの形態も変化すると思われます。工学部等理科系の大学の卒業生が金融機関等へ就職するのは、工場や研究所勤務で長時間拘束されるのを避けたいからという説もありますが、女性との交

(次頁へ続く)

The Japan Research and Development Center for Metals

JRCM NEWS/第50号(Vol.5 No.9)

本書の内容を無断で複写複製転載することを禁じます

発行 1990年12月1日

編集人 財団法人 金属系材料研究開発センター広報委員会

発行人 鍵本 潔

発行所 財団法人 金属系材料研究開発センター

〒105 東京都港区西新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル2F

TEL (03)592-1282(代) / FAX (03)592-1285

際チャンスがないからともいわれています。いわゆるこの道一筋の生き方が、ゆらいできていることも原因でしょう。都会の刺激から切り離されることも不安なのではないでしょうか。

家庭の一人所帯化、高齢化が進み、一方、第二の人生は長くなりますと、人手は高くついて簡単に使えませんから、お互いのネットワークを作って支え合っていく必要があると思います。

たくさんの人手によって世話をしてもらおうのは、最高のぜいたくですが、一般には不可能に近いことになるでしょう。

変化の激しい時代ですので、情報に敏感に、アンテナを高くしておくことが大切です。そしていま時代の変化に敏感なのは、子供と奥様方だと思われます。案外、ビジネスチャンスも業際間でなく、暮らしの回りに隠れているのではないのでしょうか。それを見つけるには感度が良好でなくてははいけません。その意味で、奥様やご家族の皆様との日常のコミュニケーションをおすすめいたします。逆に、奥様方も夫君のスペシャリストとしての情報に興味をもっていただいたら、いいヒントもあると思います。そのためというわけではありませんが、帰宅のときには、小走りに迎えに出るく

らいのこともなさったらいかがでしょうか。(笑)

また、エンドユーザーとの情報発信・受信にもっと心掛けていきたいと思えます。形状記憶合金は、ブラジャーに使われ、また、時計のバンドに使うとしっかりとした感じになるというような話も聞きます。ガラスのストッキングはキラキラと美しく保温もよいそうですし、材料の話は面白いのに、一般にはなかなか届かないのが残念です。眼鏡はいまや医療機器でなく、ファッションとなっています。このようなユーザーの種々の情報発信にも要注意。

最後に、最近、豊かさの中身が問われつつあります。政府も生活GNPなる指標を作りました。豊かさは単にお金だけでなく「ゆとり」も大切です。西ドイツのヒルシャーさんという方が、「日本人は自分の時間を管理下においていない。いつも会社、仕事のせいにしてボヤいているのはどうか」といわれたのが印象的でした。今後、ライフスタイルのメニューはますます多様化するでしょうが、自らの判断によって選択していく時代といえるのではないのでしょうか。

皆様のご活躍をお祈りします。

本文は、平成2年9月10日、当センター設立5周年記念式典におけるご講演の要旨ですが、一部、読みやすく変えさせていただきました。

第1回石油生産用部材研究会開催

JRCMでは、1985年度より石油公団と「高温・腐食環境下石油生産用部材の開発」について共同研究を行っている。本研究成果を今後実用化、他用途に応用していくためには、ユーザーの見解もとり入れて技術交流していく必要があるとの考えから、JRCM石油生産用部材技術委員会メンバー及び石油公団、石油開発会社、エンジニアリング会社とて構成する研究会を設けた。

その第1回研究会が10月18日(木) JRCMにおいて開催され、共同研究プロジェクトの内容概要を紹介し、これに対する質疑応答や今後の研究開発の展開について意見の交換が行われた。次回は12月18日(火)の予定。当日の出席者は以下のとおり。

第1回石油生産用部材研究会出席メンバー

氏名	会社名	所属・役職 (順不同)
今井 實	石油鋳業連盟	企画調査部技術担当主査
岡田 徹	出光石油開発(株)	技術室
大北 武志	出光地熱開発(株)	事業部事業課
木村 孝嘉	出光地熱開発(株)	事業部事業課
星野 利雄	石油資源開発(株)	生産部
奈良 正篤	帝国石油(株)	削井部
巴 保義	帝国石油(株)	技術研究所
小山 脩	日本鋳業(株)	資源開発本部石油資源部主席技師長
水上 博文	日本石油精製(株)	横浜製油所工務課課長補佐
藤田 武昌	日本石油開発(株)	開発部副部長
安斉 利男	東洋エンジニアリング(株)	技術研究所茂原研究センターグループリーダー
佐藤 健二	日揮(株)	技術研究本部材料研究部副主席研究員
飯島 薫	石油公団	石油開発技術センター開発技術研究室室長代理
前角 繁之	石油公団	石油開発技術センター開発技術研究室
柴垣 泰弘	石崎製鉄(株)	鋼管技術部長
柴垣 正邦	川崎製鉄(株)	鋼管技術部主査
熊切 興至	(株)神戸製鋼所	機械開発センター技術開発部主幹
清 新和	昭和電工(株)	セラミックス営業部副主査
杉山 隆雄	新日本製鐵(株)	鋼管技術部長
奈良 好啓	住友金属工業(株)	鋼管技術部上席専門部長
吉岡 剛	住友電気工業(株)	伊丹研究所電子材料研究部主査
鈴木 正敏	大同特殊鋼(株)	顧問
浅川 弘夫	NKK	鋼管技術部主任部長
赤坂 喜一	古河電気工業(株)	研究開発本部企画部部長補佐

特集 JRCM5年間の歩み

〔昭和59年〕昭和60年（1985）

JRCM関係

- (9月)・日本鉄鋼連盟鉄鋼技術政策委員会に新素材専門委員会設置
- 7月・設立準備委員会発足（9日、委員長：山本全作新日鐵専務）
- 9月・設立総会開催（26日）「発起人41社。議長：武田豊新日鐵社長。理事長に細木繁郎新日鐵副社長、副理事長に永野健三菱金属社長及び島田仁専務理事を選出」
- 10月・公益法人設立認可（1日）
大手町ビルの海外製鉄原料委員会内に事務所開設
住所：千代田区大手町6-1
- ・設立登記（4日）
- ・石油生産用部材技術準備委員会発足
- ・運営準備委員会発足
- ・軽水炉用材料技術準備委員会発足
- ・第1回理事会開催（25日）
- ・石油公団と「高温・腐食環境下生産技術に関する共同研究基本協定書」締結（31日）
- 11月・(株)テクノバから「省エネルギー技術調査研究（超電導材料の特性試験）」を受託（6日）
- 12月・ANERI（技術研究組合原子力用次世代機器開発研究所）に加入
- ・超電導材料部会発足（6日、部会長：木村電子技術総合研究所室長）
- ・軽水炉用材料技術委員会専門家部会発足（13日、部会長：神戸製鋼所田中次長）
- ・現事務所へ移転（16日）
住所：港区西新橋1-7-2
虎ノ門高木ビル2階
- ・石油生産用部材技術委員会発足（委員長：新日鐵合田副事業部長）
- ・石油生産用部材技術委員会専門家部会発足（23日、部会長：新日鐵株本部長研究員）

関連事項

- (3月)・産業構造研究会「新素材の現状と見通し」報告
- (7月)・通商産業省が基礎新素材研究会中間報告
- 5月・(財)ファインセラミックスセンター設立
- 10月・基盤技術研究促進センター設立（以下KTECと略記）
・(財)高分子素材センター設立

昭和61年（1986）

JRCM関係

- 1月・日本機械工業連合会（以下日機連と略記）から「新素材の造形デザインに関する調査研究」受託（7日）
- ・KTECから「新素材分野技術動向調査」受託（14日）
- ・設立披露パーティ開催（17日）
- ・運営委員会発足（21日、委員長：新日鐵北西取締役）
- ・(株)ライムズ設立準備部会発足
- ・調査委員会発足（24日、委員長：三菱金属永澤部長）
- ・アルミニウム系新材料の高機能化に関する調査部会発足（30日、部会長：村上陽太郎関西大学教授）
- ・金属系ニーズ・シーズ動向調査部会発足（30日、部会長：田中良平横浜国立大学教授）
- 2月・第1回評議員会開催（27日）
- ・(株)ライムズ設立（27日、JRCM関連のKTEC出資会社第1号）
- ・軽水炉用材料技術委員会発足（28日、委員長：NKK國岡次長）
- 3月・試験研究法人認可（11日）
- ・金属系ニーズ・シーズ動向調査部会海外調査団を派遣（日産自動車、古河電工、三菱金属、新日鐵から各1名）
- 4月・広報委員会発足（28日、委員長：

川鉄大森部長）

- 6月・日機連から「アルミニウム系新材料の高機能化に関する調査研究」受託（10日）
- 7月・金属系ニーズ・シーズ動向調査部会海外調査報告会を開催（7日）
- 8月・JRCM NEWS創刊（1日）
- 9月・EM(電子材料)サロン発足（12日、後藤和弘東京工業大学教授他12名）
- ・アルミニウム系新材料の高機能化に関する調査部会海外調査団を派遣（28～10/1日、団長：村上関西大学教授）
- 10月・設立1周年の集いを開催
- ・広報委員会金属系新素材関連情報に関するアンケート調査実施
- 11月・半凝固加工部会発足（11日、部会長：木内学東京大学教授、19社）

関連事項

- 9月・ニューマテリアルセンター設立（26日）
- 11月・(財)日本ファインセラミックス協会設立

昭和62年（1987）

JRCM関係

- 1月・新年賀詞交換会開催（8日）
- 2月・バイオサロン発足（26日、堂山昌男東京大学教授他8名）
- 3月・超電導材料部会終了（27日）
- 4月・国際委員会発足（13日、委員長：新日鐵杉田参与）
- ・第1回JRCM講演会を開催（24日、Latanision教授、東京）
- 5月・超電導懇談会発足（12日）
- ・アルミニウム系新材料の高機能化に関する調査部会報告会を開催（22日）
- ・半凝固加工プロセスR&D会社設立準備部会発足（17社）

THE JRCM REPORT

- 7月・日機連から「金属の半凝固加工プロセスに関する調査研究」受託（1日）
- 8月・新素材分野技術動向調査報告会（金属系）を開催（27日）
- 9月・EMサロンをEM調査研究会に改組（10日）
- 10月・設立2周年の集いを開催（1日）
 - ・資源エネルギー庁から「原子力発電所機器溶接継手の信頼性に関する調査研究」受託
 - ・軽水炉溶接部会発足（21日、顧問：三島良績東京大学名誉教授）
 - ・調査研究テーマを募集
- 11月・半凝固加工部会海外調査団を派遣（29～12/13日、团长：木内東京大学教授）
 - ・中小企業事業団から「金属製品高度デザインシステム調査研究」受託（17日）
 - ・デザイン加工部会発足
- 12月・レアメタル部会発足（25日、部会長：後藤佐吉千葉工業大学教授）
 - ・調査委員会テーマ検討WG発足（9日）

関連事項

- 1月・新素材関連団体連絡会発足（27日）
- 8月・(株)ニューガラスフォーラム設立

昭和63年（1988）

JRCM関係

- 1月・新年賀詞交換会開催（8日）
 - ・MCFC組合（溶融炭酸塩型燃料電池発電システム技術研究組合）に加入
- 2月・燃料電池材料技術委員会発足（4日、委員長：大阪工業試験場児玉室長）
- 3月・軽水炉溶接部会終了
 - ・(株)レオテック設立（25日、KTEC出資第2号）
- 4月・総務部に会計課設置
- 5月・アルミニウム表面ミリオーダー

- 硬化技術調査WG発足（24日、主査：松田福久大阪大学教授）
- ・第2回JRCM講演会（31日、Falco教授、Grünberg教授、東京）
- 6月・高比強度合金R&D会社設立準備部会発足（10日、部会長：住友軽金属工業萩原技術調査役）
 - ・新素材分野技術動向調査報告講演会（13日、東京）
 - ・極限環境部会発足（17日、部会長：井村徹愛知工業大学教授）
 - ・NS部会発足（23日、部会長：田中横浜国立大学教授）
 - ・JRCM懇親会開催（24日）
 - ・単結晶部会発足（29日、部会長：堂山名古屋大学教授）
- 7月・金属間化合物部会発足（7日、部会長：山口正治京都大学教授）
 - ・日機連から「極限環境下における材料の創製と物性に関する調査研究」受託（8日）
- 9月・超微粒子サロン発足（30日、代表世話人：明石和夫東京理科大学教授）
- 10月・鍵本潔専務理事就任。鳥田前専務理事は顧問（1日）
 - ・研究開発部国際課設置（1日）
 - ・設立3周年の集い開催（3日）
 - ・調査研究テーマ募集
- 11月・石油生産用部材に関する海外調査団派遣（3～13日、团长：住友金属奈良参与、稲田主任研究員が参加）
 - ・「鳥人間・人力飛行機」懇談会（13日）
 - ・欧米燃料電池技術開発動向調査団に参加（16～29日、酒井主任研究員）
 - ・半凝固加工技術委員会発足（30日、委員長：川鉄才野部長）

関連事項

- 4月・ミネルバ計画推進懇談会発足（26日、委員長：後藤千葉工業大学教授）

平成元年（1989）

JRCM関係

- 1月・極限環境部会海外調査団派遣（15～28日、团长：井村愛知工業大学教授。弓削次長が参加）
 - ・調査委員会 テーマ検討WG発足（20日）
- 2月・AS(Advanced System)サロン発足（7日、代表世話人：八田桂三東京大学名誉教授）
- 3月・英文JRCM NEWS創刊
 - ・(株)アリシウム設立（24日、KTEC出資第3号）
- 4月・レアメタル部会終了（6日）
- 5月・細木理事長 藍綬褒章授章
- 6月・第1次新材料電算機部会発足（7日、部会長：鈴木朝夫東京工業大学教授）
 - ・日機連から「金属系新素材開発における電算機支援システムに関する調査研究」受託（12日）
- 7月・第3回JRCM講演会（3日、木内教授、Flemings教授、東京）
 - ・新素材標準化に関する要望提出
- 8月・欧州出張（27～9/10日、越賀部長、石光課長）
 - ・単結晶部会終了
- 9月・EM調査研究会終了
 - ・極限材料に関する講演会（13日東京・22日大阪・29日名古屋）
 - ・非平衡新材料部会発足（18日、部会長：南雲道彦早稲田大学教授）
- 10月・専務理事欧州出張（20日～24日）
 - ・JRCM紹介用ビデオが完成
 - ・調査研究テーマ募集
- 11月・第1回JRCM役員懇談会（16日）
 - ・軽水炉用材技術委員会専門部会に標準化WGを設置（20日、主査：山根壽己大阪大学教授）
- 12月・調査委員会テーマ検討WG発足（8日）

平成2年（1990）

JRCM関係

- 1月・新年賀詞交換会開催（8日）

- ・アルミ表面硬化講演会 (16日東京・30日高岡)
- ・先進高比強度材料技術委員会発足 (25日、委員長:村上京都大学名誉教授、7社)
- 3月・英国のBNFへ会員加入
- ・石油公団主催講座「石油開発に係わる腐食とその対策」受託 (5~8日)
- ・永野副理事長退任、後任は日下部悦二古河電工(株)会長 (17日)
- ・金属間化合物部会終了
- ・第1次新材料電算機部会終了
- 4月・'90新素材展に出展 (24~27日、幕張)
- ・知的財産権検討会設置
- 5月・5周年記念—金属間化合物講演会 (11日室蘭・18日宇部)
- ・大型構造物サロン発足 (18日、代表世話人:三村宏横浜国立大

- 学教授)
- ・日機連から「金属系汎用素材の極限条件下における使用状況に関する調査研究」受託 (31日)
- 6月・汎用材料調査部会発足 (1日、NKK小指軍夫副所長)
- ・JRCM賞選考委員会発足 (委員長:後藤千葉工業大学教授)
- 8月・第2次新材料電算機部会発足 (1日、部会長:鈴木東京工業大学教授)
- 9月・ベルギーSADACEM社が加入 (60社目、初の外国法人)
- ・5周年記念式典—成果発表及び第1回JRCM賞表彰 (10日、学士会館)
- 受賞者 敬称略 3件8名
- 功労賞①榎本広毅(株)超高温材料研究開発センター)
- ②林常昭、松村直巳、

- 飛田修司、坂本和志 (株)ライムズ)
- 功績賞①木内学 (東京大学)
- 市川洸 (工業技術院機械技術研究所)
- 守協広治 (株)レオテック)
- ・5周年記念「ドライブプロセス」シンポジウム (19日、国際電気通信基礎技術研究所、イオン工学センター見学会 (20日)
- ・アルミニウム調査委員会発足 (1日、委員長:大阪大学中田一博氏)
- 10月・ニューマテ90ジャパン出展 (3~5日、大阪城ホール)
- ・石油生産用部材研究会発足 (18日)
- ・中小企業事業団から「アルミニウム系製品の表面厚膜硬化技術の開発」の調査研究受託 (29日)

(株)ライムズ、技術販売!

(株)ライムズが願した、金属表面処理技術に関する約70件の特許のうち、別表の技術が公開されました。これら新技術の実施希望者(需要家)を募集いたします。

PVD、CVD、イオン注入等の画期的なプロセス技術ですので、早期実用化を図るべく需要家の方々との相談に入りたく、ご連絡をお待ちいたします。代表例は次のとおりです。

- ・磁気記録媒体の磁性膜と下地膜の積層条件と磁気特性に関するもの (昭62—330516)
- ・TiAl金属間化合物の耐酸化性向上に関するもの (昭63—162011)
- ・プラズマ銃と電子銃を用いプラズマの発生制御と被覆材の蒸発とを別個独立に行う方式の成膜設備機構に関するもの (昭63—171976)

- ・蒸着、イオンビーム照射の条件と膜性に関するもの (昭63—203518)
- ・複数の原料ガス供給方法と皮膜の均一性に関するもの (昭63—264109)

- ・イオン注入を利用した、白金元素を含有するアモルファス電極電極膜に関するもの (昭63—240032)

[問い合わせ先]

(株)ライムズ 研究部:内田、原
TEL03-592-0187/FAX03-592-1285

出願番号	発明等の名称	出願番号	発明等の名称
昭62-53003	化合物薄膜の形成方法	63-181693	金色硬質窒化チタン膜の形成方法
62-121860	薄膜の形成方法	63-200001	複合超硬材料
62-123400	複合型表面処理装置	63-200002	複合超硬材料
62-231917	成膜装置	63-203517	多結晶薄膜の形成方法
62-251569	イオンプレーティング装置	63-203518	1軸異方性を有する磁性薄膜の形成方法
62-280560	気相化学反応原料の供給方法	63-240032	電解電極の製造方法
62-330516	磁気記録媒体	63-244322	イオンプレーティング装置
62-330517	耐摩耗層被膜Al部材	63-264109	プラズマCVDによる薄膜の形成方法
63-30969	真空蒸着装置	63-289734	複合硬質材料及びその製造方法
63-46844	硬質複合部材	63-289735	複合硬質材料及びその製造方法
63-102200	膜形成装置	63-307791	基材のクリーニング方法
63-127420	化合物薄膜の形成方法	63-316340	複合チタン基合金部材の製造方法
63-127421	成膜装置	平1-4703	複合部材及びその製造方法
63-127422	積層膜の形成方法		
63-147390	被覆複合部材		
63-152944	薄膜形成装置		
63-162011	TiAl系複合部材及びその製造方法		
63-166160	複合材料		
63-171976	イオンプレーティング装置		

アルミニウム系製品表面厚膜硬化技術調査委員会発足

当センターは、このほど中小企業事業団から「アルミニウム系製品の表面厚膜硬化技術の開発」に関する調査研究を受託した(10月29日)。

昭和63年5月アルミニウム表面ミリオーター硬化技術調査WG(主査:大阪大学松田福久教授)発足以来調査研究を行い、本年1月には講演会を開催(16日東京、30日高岡)する等検討を重ねたテーマが一步前進したことになる。

本調査において、広く、輸送機械、

産業機械等の業界における厚膜の硬化被覆処理技術の動向及びこれらの処理技術を施したアルミニウム系製品のニーズを把握する必要がある。このため、賛助会員各社の委員のほか、本調査が対象とする技術に関心が高く、技術レベルの高い参加希望会員を募集した結果、下表のメンバーとなった。委員長には、大阪大学溶接工学研究所の中田一博氏にご就任いただいた。

調査の第一の目的は、アルミに関す

る表面厚膜硬化技術の具体的な開発計画を提案することである。このため、ニーズを把握するためのアンケート調査、内外の技術・特許の動向調査、種々の新しい技術の経済性を含めた特徴の比較検討等を行い、いくつかの技術に絞り込んで開発計画をまとめることとしている。

JRCM、中小企業事業団とも、この提案が来年度以降の中小企業事業団の公募テーマにつながることを期待している。なお、調査期間は来年2月末までで、作業はタイトなスケジュールとなっている。

アルミニウム系製品表面厚膜硬化技術調査委員会名簿

◎:調査委員会委員長 ○:幹事 □:WG主査

WGの種類	氏名	所属	WGの種類	氏名	所属
	◎ 中田 一博	大阪大学 溶接工学研究所		橋本 芳造	㈨神戸製鋼所 溶接棒事業部技術部主任研究員
WG-1 ニーズ調査	○□ 馬久地 裕	日産自動車(株) 中央研究所研究試作部統括課	WG-3 研究開発要素調査	千葉 和郎	三菱アルミニウム(株) 技術開発センター副主任研究員
	入澤 敏夫	石川島播磨重工業(株) 技術研究所接合研究部次長		○□ 富田 正吾	富山県工業技術センター 中央研究所生産技術課研究員
	藤澤 義和	㈨本田技術研究所 和光研究所第3研究ブロックチーフエンジニア		○ 村川 英一	大阪大学 溶接工学研究所助教授
	大村 啓	吉田工業(株) 工機事業本部機能素材開発プロジェクト課長		吉江 茂樹	大阪富士工業(株) OCC事業部部長
	大塚 雅之	川崎重工業(株) 明石技術研究所溶接・加工研究室		喜田 康	セントラル硝子(株) 宇部研究所主任研究員
	増原 憲一	日新製鋼(株) 新材料研究所高分子応用技術研究室長		佐々木敏美	パーカー熱処理工業(株) 技術部担当取締役部長
	前嶋 正受	藤倉電線(株) 基盤材料研究所主管研究員		広瀬 洋一	昭和電工(株) 秩父研究所副主幹
WG-2 技術・特許調査	○□ 内山 利光	昭和アルミ(株) 研究開発部企画室長	上野 保	東成エレクトロビーム(株) 代表取締役社長	
	杉山 健二	㈨日本アルミニウム連盟 企画調査部次長	高橋 善則	月島機械(株) 市川工場工務課	
	萩原 理樹	住友軽金属工業(株) 技術部技術調査役	田中 正道	㈨真空精工 顧問	
	高橋 晋	古河アルミニウム工業(株) 技術部技術企画担当部長	石川 量大	東京メタリコン(株) 技術部長	
	倉田 正裕	スカイアルミニウム(株) 技術研究所研究員	川合 弘	住友電気工業(株) 伊丹研究所電子材料研究部主査	
	海老原 健	㈨日軽技研 表面化学研究室主任研究員	高橋 務	三菱金属(株) 中央研究所金属材料研究部室長	

賀詞交換会のご案内

平成3年を迎えるに当たり、(財)金属系材料研究開発センター、(株)ライムズ、(株)レオテック、(株)アリシウムの共催により、新年の賀詞交換会を開催しますので、ご案内申し上げます。

日時 平成3年1月7日(月)

17時~18時30分

場所 虎ノ門高木ビル2階事務所内
皆様どうぞお立ち寄りください。

※お知らせ※

第29回セラミックス基礎科学討論会

月日 1月24日(木)、25日(金)

場所 長岡グランドホテル
(新潟県長岡市)

主催 日本セラミックス協会他共催

申込先 長岡技術科学大学化学系松下和正

(0258-46-6000 内線3218)

金属学会セミナー「凝固理論と応用」

月日 1月31日(木)、2月1日(金)

場所 専売ホール(東京都港区)

主催 日本金属学会(022-223-3685)

1991年国際航空宇宙展

月日 2月14日(木)~18日(月)

場所 日本コンベンションセンター(幕張メッセ)

問い合わせ先 国際航空宇宙展事務局

(03-435-7880)

広報委員会

第55回広報委員会

日時 11月8日(火) 11:00~15:00

場所 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)

議題 1 JRCM NEWSに関するアンケート実施方法及びNEWS配布先見直し

2 博物館活動の研修(講師・田口勇教授)

調査委員会

「アルミニウム系新材料の高機能化に関する調査部会」

第26回アルミニウム高機能化部会

日時 10月24日(火) 11:00~15:30

議題 平成2年度下期活動について調査研究テーマの進め方

「極限環境部会」

第15回極限環境部会

日時 10月19日(金) 15:30~17:30

議題 1 各WGの作業進捗状況報告

2 「知的財産権の取り扱い基準」について

「新材料電算機部会」

第3回新材料電算機部会

日時 10月23日(火) 14:00~17:30

講演 第一原理計算等について

議題 平成2年実施すべき調査研究課題の検討

第4回新材料電算機部会

日時 11月13日(火) 10:00~12:00

議題 1 グループ編成

2 今後の作業の進め方

「NS部会」

第19回NS部会

日時 11月6日(火) 15:00~17:30

講演 1 「鉄鋼の熔融還元について」

日本鉄鋼連盟熔融還元研究開発委員会研究部長 金森 健氏

2 「冷鉄源溶解法について」

新日本製鐵(株)広畑技術研究所主

任研究員 梅沢一誠氏

「電子・電機材料部会(仮称EEM部会)」

第1回EEM部会

日時 11月7日(火) 14:30~19:00

議題 1 部会長選任

東京大学教授 岡部洋一氏

2 講演 「高密度実装の現状」

(株)東芝新素材応用研究所

所長 宮代文夫氏

「汎用材料委員会」

第3回汎用材料委員会

日時 10月16日(火) 14:30~17:30

議題 1 phase (I) 「対象材料の要求特性とその限界の調査」についての各WGからの報告

2 phase (II) 「ユーザーニーズの調査」の進め方について

第4回WGIII

日時 10月16日(火) 10:30~14:00

議題 調査結果のまとめと限界性能・課題の抽出

第6回WGII

日時 10月16日(火) 10:00~13:00

議題 調査結果のまとめ
磁性材料についての討論

「アルミニウム系製品表面厚膜硬化技術調査委員会」

第2回委員会

日時 11月6日(火) 13:30~19:50

講演 1 「オートバイにおけるアルミ合金について」

川崎重工業(株)C P事業本部技術管理部長 上月忠夫氏

2 「電子ビーム加工機によるアルミの表面硬化」

(有)真空精工顧問 田中正道氏

3 「溶射用新材料について」

東京メタリコン(株)技術部長

石川量大氏

議題 1 中小企業事業団技術検討会の内容報告

2 アンケート実施について

3 各WGの作業進捗状況の報告

第1回WGII

日時 10月29日(月) 13:00~16:30

抄録文献の仕分け

国際委員会

第27回国際委員会

日時 10月24日(火) 16:00~17:30

1 JRCMシンポジウムについて
—アンケート調査結果

2 国際交流事業業務内容及び懸案事項

石油生産用部材技術委員会

平成2年度第3回専門部会

日時 11月1日(火) 13:30~17:00

1 PTH法長尺管製造設備製作進捗状況報告

2 CVD法コーティング研究進捗状況報告

3 コーティング継手の作成及びその評価試験結果について

4 長期研究計画の審議

燃料電池材料技術委員会

第10回燃料電池材料技術委員会

兼第10回金属系材料WG

日時 11月2日(金) 13:00~15:00

議題 1 各社の後期研究計画に対する考え方について

2 ムーンライト計画のMCFC研究開発後期計画における平成5・6年度材料開発の位置づけの基本について

ミネルバ計画関連

「第17回総合企画WG」

日時 11月9日(金) 14:00~16:00

議題 1 非鉄金属素材市場の将来展望定量化について

2 新ミネルバ21(新規技術開発テーマ)について

事務局の人事異動と新人紹介

〔人事異動〕

JRCM

平成2年10月21日付

(新)	(旧)
四熊宗方 <small>しくまむねかた</small> 総務部総務課長	日立金属 <small>(株)</small> 特殊鋼事業部 海外営業部課長
三島律夫 総務部次長	総務部総務課長
平成2年10月31日付	
石井康二 古河電気工業 <small>(株)</small> 研究開発本部 補佐	総務部長
石光 豊 新日本製鐵 <small>(株)</small> 国際課長 総合調査部 長代理	

平成2年11月1日付

長浜 肇 研究開発部次長 兼国際課長	新日本製鐵 <small>(株)</small> 新分野事業部エレクトロニクス部 販売企画GL
杉山雄二 研究開発部 主任研究員	川崎製鐵 <small>(株)</small> 鉄鋼技術本部 鋼管技術部主査
三島律夫 総務部長	総務部次長

〔株〕アリシウム

平成2年10月31日付

黒柳 卓 古河電気工業 <small>(株)</small> 研究開発本部	研究管理部長
---------------------------------------	--------

平成2年11月1日付

松本正路 <small>まつもと まさみち</small> 研究管理部長	古河物流 <small>(株)</small> 取締役管理部長
--------------------------------------	---------------------------------

〔新人紹介〕

①出生地 ②西暦生年月日 ③最終学歴
④職歴 ⑤仕事に対する期待 ⑥趣味等



四熊宗方
①山口県
②1948年10月27日
③上智大学法学部
④日立金属(株) 安来工場

を振り出しに本社海外部を経てニューヨーク、デュッセルドルフ駐在。2年前に帰国し特殊鋼事業部海外営業部に勤務。
⑤かなり畑の違うところにきましたが、1日も早くお役に立つよう努力いたします。
⑥昔は剣道、居合道を少々。自分の運動のためにもそろそろ息子たちへの手解きを始めようかと思っています。



長浜 肇
①茨城県
②1942年6月20日
③早稲田大学商学部
④新日本製鐵(株) 鋼管技術部

出部門 エレクトロニクス部門
⑤販売関係一筋で、研究開発のようなアカデミックな経験ははじめてです。いままでの海外駐在経験(デュッセルドルフ、シン

ガポール)を生かしてできるだけ早く当センターのお役に立ちたいと存じます。

⑥ゴルフ、魚釣り、園芸。園芸は野菜作りでナス、ピーマン等色々作っています。収穫の時は気持ちの良いものですよ。



杉山雄二
①富山県
②1948年7月4日
③東北大学工学部機械工学科

④川崎製鐵(株) 鋼管技術部門
⑤今まで内業務が主だったので、当センターの仕事をとおして色々な分野の方々とお会いできるのを楽しみにしています。微力ですが、早く慣れてお役に立ちたいと思います。よろしく願いいたします。
⑥読書は乱読。囲碁は定石を勉強中。地方勤務の5年前までは球技、水泳等。今は場所が無くして残念です。



松本正路
①東京都
②1936年11月21日
③中央大学法学部
④古河電気工業(株) 営業、資材、物流部門

⑤早く新しい仕事に慣れて、Al-Li合金の研究に、日夜取り組んでいる技術部門を側面よりバックアップしていきたい。
⑥山荘での植樹、まき割り、料理に精を出しています。

新素材関連団体連絡会だより

第36回新素材関連団体連絡会は、10月22日(月)、(株)ニューガラスフォーラムで開催された。

まず、基礎新素材対策室より、「平成3年度地球環境保全施策の総合的推進について」及び「(財)地球環境産業技術研究機構(略称:RITE)について」の説明があった。地球環境関連予算総額は、2年度の1,176.2億円に比し、3年度概算要求額は1,238.2億円に増加している。

引き続き、基盤技術研究促進センターが、外部シンクタンクに委託した「素材間の代替性・競合性に関する調査」の内容について説明があった。本調査では、廃棄・リサイクルにも焦点

をあわせ、製品のライフサイクルごとのコスト分析も行う予定である。

次に、NMC村上所長が、10月9日(火)に開催された「第2回新材料試験評価技術基本問題検討委員会」と「第3回新素材開発・標準化国際委員会」の合同委員会について報告(VAMAS関連)。関連してJFCA岩田専務より、「生体材料の標準化に関する連絡協議会」が近く設立されるとの説明があった。

ニューガラスフォーラムから、フォーラムの入居している日本ガラス工業センタービル(新橋駅近くの日比谷通り)1階に「現代ガラスの博物館」が開催されたとの紹介があった(入場無料)。

今回は、11月22日(休)開催予定。

●新刊紹介

JRCM設立記念シンポジウム「ドライプロセスによる大型部材の表面改質」資料

「Surface Modification of Large-size Parts and Members by Dry Process」
(英文、89頁)

発行 JRCM

価格 7,000円(消費税込み)

内容 高木俊宜イオン工学センター(株)副社長による薄膜基調講演ほか、以下10の論文。

・爆発溶射・LPPS・連続蒸着亜鉛めっき・肉盛溶射・管継手コーティング・超先端加工システム・ドライコイルコーティング・プラズマCVD・マルチイオンプレATING・大型イオンプレATING装置